

## 八ヶ岳：本沢温泉 テント泊

- ◆日程 2023年7月8日(土)～9日(日)
- ◆メンバー L：TY、SS、WY、SKH、HK、NI、OK
- ◆天候 曇りのち雨

待望の大型実力派新人の中井さんの歓迎山行に加え、新人向けステップアップ企画としての「初めてのテント泊」企画を掛け合わせ、TYリーダーのもと合計7名が参加した。雨予報のため稲子湯～本沢温泉(幕営) 東天狗岳にコースを変更しての山行となった。

## 7月8日(土) 天候：曇りのち雨

10時50分に稲子湯温泉から出発。新人のザックの重さに気を使っていたきながら、テントなどの共同装備を手分けしてザックに詰め出発した。稲子湯PAからの出発時には降雨もなく、水分をたっぷり含んだ木々や苔たちは鮮やかで梅雨の時期ならではの美しさで迎えてくれた。ピンク色のクリソウ群生地では足を止め、写真を撮ったり周りを見渡したりしながら、のんびりと歩を進めることができた。

しらびそ小屋のあるみどり池にはリスや野鳥の姿も見られ、しらびそ小屋の朴訥とした佇まいと煙突から出る蒸気に懐かしさを覚えた。本沢温泉のテント場は貸切り状態で、選び放題の状態、テントの位置や出入口の向き、張る順序などについて教えていただきながら、良い位置にテントを2張設営することができた。(記：HK)



本沢温泉といえば、何と言っても野天風呂だろう。天気予報のおかげか登山客がほとんど居なかったため、躊躇いもなくウェアを脱ぎ捨て、大自然を背景に源泉に浸かることができた。テントに戻り夕食準備。今回は林さんと二人で初めての食当。キノコ鍋は試作した甲斐もあり、ご好評いただけてとても嬉しかった。リクエストに応じて、レシピを下に示す。

## キノコ鍋レシピ 【材料(7人分)】

水 2L、あご出汁、醤油、しめじ 300g、えのき 100g、シャウエッセン 700g、乾燥油揚げ、乾燥野菜 3種、トック一袋(最後にアルファ米 2袋で雑炊) ※食べ盛り? NIさんの歓迎山行のため、気持ち多めに準備 (記：SKH)



CT：稲子湯旅館 10:50 - 本沢温泉 15:20

## 7月9日(日) 天候：雨

翌朝は3時30分起床。夜8時からぐっすり寝ていたのだが、「水没しているよ！」の声で目覚める。見るとテントの片側の内側に水が溜まっており、マット、シュラフや荷物が濡れてしまっている。急いで荷物を端によけ、新人たちはしばし呆然とする。どうやら、レインライを十分に張り切れていなかったためテント本体とくっついてしまい、そこから水分が伝ってテント内部に滴り落ちていたことが主な原因のようだ。先輩方に速乾性タオルなどで持ち物やテント内の水分を拭き取るようアドバイスされるも、都合のよいタオルがなくて役に立たない。スマホの買うものリストに、「速乾性タオル」「シュラフカバー」と記入した。

朝食はNOさん(不参加)の強力なお勧めの「半田そうめん」を皆で頂いた。稜線では強風が予想されることから、東天狗岳登山は見送り下山を決めた。先輩方にテントの撤収を指導していただき、えっちらおっちらとテントを壊さないように気を付けながら片付ける。装備が濡れていて扱いづらいうえに、重くなることもまた一つの学びであった。

下山はゆっくりと下りたが、それでもまだ時間が早いため、稲子湯旅館で温泉を浴び、帰路にはそばやコーヒーを頂くなどの楽しい時間が取れた。やはりここでも大型実力派新人は、食べ盛りで今後の山行が楽しみである。

今回は雨天のため歩き足りない気持ちは拭えない。しかしながら、テント設置撤収の流れを知ることができたうえ、長期縦走時等には発生のある雨天時のテント泊を経験でき、水没リスクをも実際に体験できた。登山者として失敗から認知を広げ、経験値を増やす良いチャンスとしたい。(記:OK)

CT：本沢温泉 5:40 - 稲子湯旅館 8:40

総じて、極めて新鮮味の強く、刺激の多い山行だったように思う。

テントを張ってそこで食事を作り寝泊まりする経験、大自然の中文字通り裸一貫でお湯に浸かる経験、雨音を聞きながら大自然の中で寝る経験、雨に濡れながら下山する経験、そしてこれらを大勢の皆さんと共有する経験……どれ一つとっても、これまでの単独山行でならやろうとしなかっただろうし、できなかった経験だと思う。天狗岳に登れなかったことは心残りではあるが、ここまでの経験を一举にできることは中々ないようにも思う。頭で考えるとかではなく、肌身をもって学び知ることのできた、貴重な経験だったように思う。

また今回の山行は、食事の手配からテント張り、プランニングに至るまで、先輩の皆さんに支えられて初めて成り立っているように強く感じた。今回の出来事について、少しずつ学び取って自分のものにし、進んでやれることを増やせるようにし、複数人の山行でも役に立てるようになりたいと思った。最後になりましたが、このような機会を提供してくださった先輩の皆様方に、この場を借りて御礼申し上げます。(記:NI)

